京城新報

●新聞料 ▲一部二錢▲一ヶ月前金廿五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月金拾參錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆 三月十二日
發行兼編輯兼印刷人 山下英爾
發行所 京城新報社 京城西署西小門通 電話六六三番

對韓政治に就て（承前）

森本幹夫

由來韓半島は眇たるものにあらず、彊土の廣濶富に國富増進の算數あり、若夫れ我輔導啓撥に遊び、二千萬の蒼生[illegible]じ爲政者自ら活躍する所あらば、其効果の顯著なる火を睹るより明かなり、韓民の現下無能、無識、暗愚の如く見ゆるは則ち舊習慣を俄かに革め難く、自然の推移に從ひたると、時勢の之れを然らしめたるとに因る、視て以て、之れを蔑視するは、頗ぶる苛酷ならずや、苟も國君を戴くの蒼生、誰か白眼冷淡、國難を對岸の火災視するものあらん、韓民の振興せざるが如く見ゆるは、則ち其國風が、振興せざるが如き外觀を示すものに外ならず、導くに道を以てし、誘ふに法を以てせんか、我國民と親睦し、提携し、以て國富増進の途に出づるや言を俟たず、然るに我が當局は、眼光其表裏に徹底せず韓國に對して、積極的とも、又將、消極的とも附かぬ政策を弄し、只瓢々乎として其中間に居り、徒らに煩悶焦慮、杓子定規に拘泥し、小成に安じ、小康を貪り、殆んど其歸向する所すら覺知するに苦しむものあり、看よ我統監政治の經路を、又其當局者の遣口を、彼等は、我が對韓政治の眞髓を曖昧模糊を經となし、追從世辭を緯と心得得々乎として五里霧中に彷徨する陋態か、夕に呉客、朝に越客を送迎するの醜狀を、現實ならしめたるのみ、偶々以て骨あるも韓人の面從腹背、遂に度し難しとなし、其の血あるものあれば、反つて排日派となし無能、無識遂に與みすべからずとなし、以て無下に之れを蔑視して、其頑骨たるを發揮したるのみ、抑も本末を誤りたるの太甚しき、墮落腐敗せるの甚しき、倶に論ずるに由なく、統監政治從來の經路、又知るべきのみ、噫、既に病の膏肓に入りたるもの治するに術なきか、政治の墮落せるもの、濟ふに法なきか。

斯くして、誤られたる統監政治は、生存上の必要と人道の爲め、漸く贏ち得たる、韓國に於ける我が勢威、利權は殆んど地を拂ふて失墜し、暴徒蜂起の猖獗となり、中央に於て排日的言動を爲して、日韓協約を蹂躙するものあれば、遠く米大陸に於て我が外交を阻害するの徒あるに至つては、韓國に於ける、我が國光の不振、我國が韓民の怨府となれるの甚しき豈に夫れ慨嘆に堪へざるものなしと爲す乎、當局之れを以て、韓民の無智なる、絶望的の反噬、敢て意に介するに足らずと爲さば止まん、雖然、之れ我が政治、經濟、外交、實業、殖民等に直接、間接、其影響の及ぶ所少々ならざるを奈何せん、嗟呼、吹けば散るなる木葉的爲政者、打てども響せざる頑物は、吾徒俱に談ずるの要なし、南無我が對韓政治をして、巷説の傳ふる如く、龍頭蛇尾哉を異ならしむる勿れかし。

翻つて一度眼を歐米の大勢に注ぎ、轉じて我が絶東の地を凝視せんか、米國は商業的多大の利害を滿洲に有し、頗ふる振ふものあり、英國又關外鐵道に於て、政治的關係の深大なるものあり而して往年其勢力を極東より驅逐せられたる、露國東漸の勢、近來又決して侮るべからざるものあり、其他獨逸の狡猾なる、佛國の殖民に汲々たる等、要するに絶東の地間隙あらば、之れに乘せんと、頻りに窺窬しつゝあるもの多く各國勢力の角逐場たるや、遂に免るべからざるの數と思はる、此間に於ける韓半島の位置は奈何。

嗚呼絶東の地、政治的組織の能力あるもの國民的觀念あるもの、獨り我日本帝國民あるのみ、以是、吾徒が東洋諸國に對するの天職は、果して那邊にあるか、吾徒は他日に於て之れを詳説する所あれども、我民族の通有性とも言ふべき小規模を以て、大局を洞察するの明を欠き、小局に齷齪して、以て杞憂の結果、怨府となるが如きは、吾徒の斷じて執らざる所なり、我が德化の汎からんことを希ひ、嘗つて世界に向つて聲明したる大精神を、發揮せしめんと欲せば、須らく大國民たるの觀念を以て局に當り、其能力あるを要す、而かも我五千萬民族の發展を阻害するもの、必ずしも外患のみならず、寧ろ內憂に其因多きを見る、茲に於て吾徒は、韓半島の往年を懷ひ、現狀に鑑み、前途の形勢、茫漠たるなり樂天的ならずと、論じて以て當局の反省を促すものなり。

●仁川材木界の現況

例年本品は二三月頃より弗々荷動き且多くは前年の注文に係るものにして眞に本年度の注文とか稱すべきものは昨今以後とす其需要者は京龍仁川間を主とし水原地方へ輸送さるゝ分も尠からざれど海州方面の需要は漸く減少の氣味あり

當地方へ輸入さるゝ材木及板類は主として能代秋田紀州新宮等より來り關門を經て九州東南部及山陰各地より輸入さるゝもの亦少からず然れど北韓に於て多く使用さるゝ鴨綠江材木は當港には殆んど影を止めず尤も一二輸入を試みたる者なきに非ざるも到底日本品と競爭するを得ず遂に失敗に了りたるが如し而して昨今京仁孰れの地を問はず斯商は異口同音不景氣不捌けを唱ふれど其需要は決して減少せるに非ずして逐年驚くべき激增を呈せり即ち最近十年間の輸入額を擧ぐれば

三十年	一五〇、九六七
卅一年	一九、五二一
卅二年	三四、九〇三
卅三年	一八、二〇三
卅四年	三三、五九九
卅五年	四〇、四八四
卅六年	一二七、七三一
卅七年	二八四、二五四
卅八年	二九四、六三五
卅九年	五二七、五九二
四十年	九五三、五九六

依之觀之、二十九年前後には約十萬を上らざりしものも昨年に至つては十倍の額に達せり尤も由來本品の賣行は市況閑散人氣の昂沈に至大の關係を有すること無論なるも昨今の勢にては今後とも八九十萬圓を下らざるべし然るに斯業者が一般に不況を喞てる所以は其原因種々あるべけれど日露戰役後の諸工事勃興が深く斯業者の頭腦に刻まれたる爲め漸く平常に復したる昨今を見て過度に悲觀せると一昨年來同業者の激增と共に自然自己の賣高を減少したる等は其最大原因なるべし

●平壤無煙炭

平壤無煙炭採掘事業は從來宮內府に屬したりしが昨年十月より之を農商工部の所管に移し平壤礦業所を設けて比較的大規模に之を採掘する事となりしも目下僅に三百名の人夫を使役するに過ぎず坑道の如きも橫坑式にして頗る輕便なるが一日の採炭僅々百五十噸に足らず然れども既報の如く海軍省に供給せん爲め先般試驗用として送致したるに其成蹟頗る良好にして最上炭と稱するに足り當路者の間には海軍用として今後大に採掘搬出するの契約既に成りたる由なれば將來に於ける同炭坑の採掘力も自ら增大せざる可らざるは勿論にして海軍使用の量を約三十萬噸德山產の分は僅に十五萬噸に過ぎざるが故に其補充として平壤炭を使用する都合の由なれば同地の炭坑は之れのみを以てしても今少しく大規模となすの要あれども鑛業所本年度の豫算は僅かに二十萬圓に過ぎざるが故に今日の儘にては到底之に應する能はざるべしされど當局者の談を聞くに來る六月までに相當の設備を終り其以後に於ては一日平均三百噸の採掘をなす由其炭脈はウイ字形をなし平壤附近の露出山より松羅山、寺洞、高坊山（目下孰れも採炭中）を經て鳳凰山、高飛里に至る約七里の線と鳳凰山より分岐して三登郡土橋里に至る約七里の線合計延長十五里の脈にして約一千萬噸は優に埋藏せるものと見るを得べしと云ふ

●鑛業許可

三月廿七日より四月三日迄許可されしもの左の如し

金鑛 一〇〇、三二一坪 平安北道朔州郡城上面
京城東署崇信坊顯眉洞二十九統九戶 閔泳隣
平安北道義州郡東部 田亨鍵
同道同郡九曲面城坪 朱定鎬

黑鉛 二二、八一〇坪 慶尙北道咸昌郡上西面
釜山港幸町一丁目五番地藤井良助方 權藤茂邦

金銀鑛 八四一、一〇〇坪 同道高靈郡雲羅面
長崎市大浦十五番地 シービーエッチ、スキパ商會
仁川日本居留地本町廿二番地 慶田利吉
鹿兒島縣薩摩郡中佐村三一二番地 慶田直次
仁川日本居留地第八一番戶 田中佐七郎
仁川各國居留地本町十五號 渡邊友太郎
鹿兒島縣薩摩郡隈之城村五番戶 鮫島佐次郎
釜山大廳町四番地 白石平隈

石炭 六三三、七一五坪 同道迎日郡延日面
京城中署磚洞十五統二戶 金斗變

銀鑛 九六、五五八坪 平安北道渭原郡西下面
京城南署竹洞六十二統五戶 楚山郡郡面
李啓弼方 田敬濟
平安北道義州郡州內面多智洞 朴基麟
京城中署槐花洞八統三戶 孫永億

銅鑛 九九一、三三四坪 慶尙南北道昌原郡內西面
京城旭町一丁目 桑原大平

基督教宣教師（寄書）

無□氏

天には榮光、地には平和、人には惠あれ、此聖句こそ基督教徒の常に希望する所也、若し夫れ此希望に副はざる行爲をなさば、そは基督の聖徒に非ざる也。

韓國に於ける基督教宣教師等の行動を見るに、聖旨に悖るの行爲尠からざるのみならず、往々地に波瀾を起して天の榮光を掩ひ、人には屢々慘禍を蒙らしむるを見る、苟も十字架の犧牲を解するものにして敢て斯る行爲を取らんとするは、抑も何故ぞや。

熟ら〳〵觀察するに、渠宣教師等が聖徒にあるまじき行動を爲す所以のものは、傳道の政略として、政治問題に關係せることが一の大なる原因也、一度政治の渦中に投ずるや、容易に其弊を拔く能はず、古より宗教家が傳道の爲に政治に干與して失敗せざるものなし、政治てふ魔神の誘惑は傳道者に向て常に襲來す、基督は之を明確に敎へたり、曰くカイゼルのものはカイゼルに返し、神のものは神に返せと、嗚呼之れ福音宣傳者の孜々守るべき信條にあらずや、韓國の傳道は政治問題を利用すれば、如何なる宗敎にても信敎の頭數を得ることは容易也、故に渠等は頭數增加の報告に誇らんが爲に政治の禍中に投ず、亦或る者は職責以外の野心を充たさんが爲に政治問題に熱中す、其心事の陋劣なるは基督が熱罵したる學者とパルサイ宗の人も啻ならず。

勿論近時に於ても渠等は其傳道に日本の保護統治を嘲り、其獨立を皷吹し、各其本國の强盛を吹聽す、渠等が政治論の當否は措き、斯の如くにして得たる信徒は基督敎徒にあらずして、排日信徒也。

吾人は嘗て渠宣敎師等が外交家に使嗾せられたるを屢々觀たり、渠等が宮中に出入して其畫策に參加せるを觀たり、渠等が今日排日思想を宣傳するを怪まむや。

斯る墮落せる宣敎師が日曜日の講壇に立ちて、基督を語り、ポーロを語り、マルチンルーサーを稱し、ウエスレーを傳ふるに至りては、渠等良心痲痺の程度を知るに苦しむ。

吾人更に警告す、今も尙は蜂蜜と蝗を食とする豫言者は卿等の爲に野に叫べり、曰く天國は近づけり悔改よと、ア丶爾等耳あらば能く之を聞け、悔改は基督敎の神髓なりと知れ。

讀者歌壇

投書歡迎

春季雜詠

水原　慶夫

夕照
眞帆片帆沖にしづみて砂しろき十里の洲濱夕日かげろふ

壁
ぬりあげしときはの竹の根ぎし壁ゆかしきふしもみゆる色かな

黃
色つきし銀杏葉散りぬ法の師がくりひろげたる染紙の上に

筆
ともすれば人をいつはる筆こそは狸の毛もて成れるなるらめ

幽靈
雨くらき柳の木陰きゐやらぬうらみやたれの鬼火なるらむ

鳥
のどかにもかげろふきゐて花薔薇かをる軒端にかなりやの啼く

家
蟲のうちに似たる小家も住みなれて膝入るゝにはあまりありけり

兎
久方の月かげすみてつるぎ太刀とくき生ふる野を兎とぶみゆ

たのしきもの
睦ましき親子はらから水いらず浮世の風をよそにきく宿

をしきもの
おもしろき夢のかよひ路はしきりてつらくも人の呼びさましたる

醉中作
たとふべき物しもあらぬ醉心地知らぬがあはれ酒のまぬ人

をりにふれて
こひすとて何世の人のわらふらむもとよりわが身石木ならぬを
世の中の人わひとりにかきらじと諫むる人よなさけしらずも

小說　紘のみだれ（百十五）

永井櫻園

勇五郎は鷄肉の透燒で、グビリ〳〵と獨酌で傾けつゝ、山田の歸りを待受けて居たが冬の日の暮易く、三時、四時、何時しか日はトップリと暮れたが、まだ山田は歸つて來ない、た縫は幼兒に乳房を哺めさしたまゝ、呆然と傍に座つて、眩ゆさうに洋燈に照らされて居る。

唯、時計は早くも九時を告げた、勇五郎は一舛德利の底を拂ふまで飮み盡して、例の赤顏は赤銅色に變じ、爛たる眼のみ輝かし

「いくら何だつて、餘り遲いじやないか、モウ九時だ、人馬鹿々々しい、十二時までが二十七日だつて、一時過から九時までゞすよ。」

つて、それでも歸つて來ないなんて何處で何をしてる事やら、これほどなら時間までチャント約束爲て置くのだつたに、忌々しい……」

と、舌打して、飮半の杯を呷さ一息に、杯をそのまゝ杯洗の中へ投げ込むで。

「さあ、酒が無くなつたから、道具を納つて下れ。」

云ひ了つて、此度は烟草を喫し始めた、た縫は小さき胸を千々に碎いて、良人の首尾克く金子を持ち歸るやう、それのみ祈りつゝ言ふがまゝに杯盤を取片附などして後、

「本當にお父さんお氣の毒ですね、斯麼に遲くなりまして、必然何でせう、今日は約束の日だと云つて、夜の目も碌々寢ないで心配して居ましたから、何うかして調へて歸る意で、それで斯麼に遲くなつたのでせう、今にも持つて歸つたら、直ぐお届に上りますから、どうぞ歸つて休むで居て下さいな。」

勇五郎が雁首の折れるほど、烟管で灰吹を叩いて、

「いゝや、歸らない、これまで待つたのだから、豈夫泊つて歸りも爲ないだらう、また序に十二時まではまつて見る、その代り寒が酷いから、火鉢へ炭をドッさり繼いで下れ……」

と、た縫に炭を繼がして、何やら弗々口の中で呟きながら、又暫く烟草を相手に待つて居た、すると九時半を少し廻つた頃、表格子が開いたので、た縫は首尾如何にと氣遣ながら、玄關に迎へた、見れば良人は顏色憔悴として、極て力無げな樣子で、た縫を見ると、

「お父樣がお出だらうね。」

と、低聲に聞へば

「はい、一時過から來て、未に待て居られ云つて、更に聲を密め、

「如何でございました、御都合は……。」

山田は勇五郎の待受け居ると聞いて、いとゞ寒氣に色褪た顏を、死灰色に變へ、

「矢張今日も徒事だつた、實に困つたね。」

と、絞り出した如き太息を吐きながら、悄然として座敷へ入つた、そして大胡座を據きつゝ、烟草を喫し居る勇五郎に向ひ、

「お父樣、永くお待下さつたさうですが、遲くなつて申譯がございません、どうぞ勘辨なすつて下さい。」

勇五郎は行儀を正さうともせず、胡座のまゝ、

「隨分遲かつたな、しかしいくら遲くなつても賴むだ金子さへ作へて貰やア、待つ位な事は辛抱するさ、はゝゝゝ。」

と、高く笑つて、

「ではモウ彼是十時になる、氣の毒だが約束の金子を直に貰つて歸る事に爲やう。」

日本人大臣を任命すべし

京城新報

李完用内閣の崩壞は屢々風說に上り、民間に對する威信既に缺乏し、政令の出る毎に人民は嘲笑して之を迎ふ、斯る不信任なる内閣を存續する必要なしとは、余輩が嘗て警告を與へし所也、然るに今尚之を存續せしむ、現内閣打破の餘義なき事は保護國の官憲として、統監府の認識せらるゝ事なりと信ず、之を存續する所以のものは統監歸任迄現狀を維持するのみ、統監は新内閣組織の腹案を齎らして歸途にあり、歸任せるや直に現内閣は更迭せしめんと、新内閣は申箕善を首班とし中老内閣を組織せしむるならむ、亦た曰く宋秉畯と統監とは深き關係を生じ、宋秉畯を首相として一進會内閣の組織を見むと、傳說飛語は紛々として余輩の耳朶を鼓つ、傳說飛語素より耳を傾るの價値なしと雖も、現内閣打破は韓民の輿論なるのみならず、保護統治の實蹟を擧る上に於ても打破するの必要あり、民怨重なる内閣をして施政に當らしむるは決して得策にあらざる也。

余輩の更に望む所は、現内閣を打破する此機會を利用して、百尺竿頭更に一歩を進めて新内閣に日本人を大臣たらしむること也、若し夫れ閣臣全部を日本人とすることの得策にあらずとせば、重要の二三部に之を入れしむべし、既に次官制度の不可なるを知る上は、斷然大臣を任命せしめ施政の改善を計るべし、今や決して之を躊躇するの場合にあらず、曾禰副統監の如きも施政の改善は到底現閣臣等の能くする所にあらずと歎せられたりと聞く、果して曾禰氏が斯く歎せられしや否は知らざるも、事實は全く之を證據立て居れり、假令現閣を更迭して新内閣を組織するも韓人のみにては、現狀以外に發展する能はざる也、早晩日本人をして閣臣たらしむるものとせば、迂回せずして此好機會を利用し以て、少くとも閣臣の半數を日本人たらしむべし。

余輩は常識より判斷して、我官憲が之に反對せざるのみならず、大に其必要を認識せらるゝならむと信ず、統監にして若し之を斷行するに躊躇せば、之を督勵して遂行せしむる樣勸告せんことを特に曾禰副統監に待望す。

漢城便り

▲故ステーブンス氏の追吊會は其式簡單にして莊嚴能く故人の性格に副ひたるものと存候故人在天の靈も嘸滿足せられたるべくと存候記者は故人の友たるの故を以て特に曾禰副統監に向て主催の配慮を深謝する者に御座候

▲若し韓人中眞にス氏の死を悼む者ありとすれば开は總理李完用に有之候李は往年米國に在りたると英語を解するの故を以てス氏來韓以來特殊の親交を結び萬事に付常に指導を受け居りたる者に御座候李が多少他の韓大臣等と趣を異にせるは皆之が爲に候今や其人無し李の寂寥察するに餘りある次第に御座候

▲東洋拓殖會社の由來は大坂毎日の所報の通りに有之候記者も略此間の消息を承知致居候播種者たる後藤男灌漑者たる木内新渡戸兩氏は同社成立の恩人と稱すべき者と存候併し尚一人の恩人有之候开は前藏相坂谷男にして男は同社の生命とも云ふべき政府補給の件に關し一方ならず好意的配慮をせられたるものに御座候

▲韓國人口の增減如何に就ては新渡戸博士は餘程の苦心を以て調査被致候記者も各種の材料に因て調査致候其結果韓人口が年々減少することを確め申候只減少の割合が幾許なるかは未だ明瞭に斷言致兼候

▲拓殖會社營業開始の上は同社の手を以て多數邦人を移植せらるゝことゝ存候邦人の移植は韓人の喜ばざる所なるべきは勿論の事と存候併し今後は韓人の喜ばざる位は問題と致すべき者に無之と存候

▲韓人の感情云々を理由として邦人の移植を統監府が差止めたる時代も有之候併し之は同府に俗論の跋扈したる時代に御座候今や俗論廢れて拓殖起らんと致居候一寸の間に大なる變遷を見るものに御座候

▲民團立高等女學校も彌開校の運と相成候由慶着の次第に存候内地の古き社會にては理想的女子教育を施すに何かと不便有之候と聞及び申候殖民地は理想を實行するに比較的自由に御座候三浦校長以下の諸君幸ひに此自由を善用して良妻賢母以上の婦人を作られんことを切に期望致候

▲大韓日報の日韓商業會議所合併論は記者の賛成する所に有之候當局者も大韓の所說を聽きて合併遂行に盡力せられんことを希望致候

▲韓人は何の團体をも政治的に利用致候今の漢城商業會議所の如きも已に一種の政治的團體の如く利用致され居候合併は慥に此弊を矯め得ることゝなり同時に大なる無形の利益を收め得る事と存候

▲伊藤統監の着韓期

靜岡電報

伊藤統監は十四日軍艦吾妻に乘込み下關を發し十六日仁川港に上陸せらるゝ筈なり(十一日發)

雜報

●皇太子へ菓子托送　東宮大夫高義敬夫人洪氏は本日東京へ向け當地出發に付御暇乞の爲め十日德壽宮へ參内せしに其際太皇より韓太子へ左の物品を托送されたり

一茶菓一箱　一江丁一箱　一白淸一箱
一實柏子一箱

●皇帝皇后の御運動　皇帝皇后は例の如く一昨日午后三時字御秘苑御運動あらせれ同六時還御あらせらる

●相賀騎兵中尉　陸軍騎兵中尉相賀寅甫氏は一昨日入京清尾旅館へ投宿せり

●巡査の賞與　大同警察署巡査清水源三、本土登、渡邊爲次郎、稲田光穂の四氏は本年二月三日強盗犯人朴大成外五名を協力逮捕したる功により各金二圓宛を又木浦警察署巡査松永安太郎氏は一月十五日韓國通貨僞造行使犯人鎌田警を逮捕したる功に金五圓を何れも此の程賞與せられたり

●京城憲兵分隊の清潔　京城駐劄憲兵分隊にては昨日午前中室内外の大掃除を爲し一般の清潔を勵行したり

●十日參內者　昌德宮計五十八人(内婦人七八)重なるは宮内大臣李允用、宮内次官小宮三保松、侍從院卿閔丙奭、同副卿李會九、主殿院卿李議濟、同理事高鎭國、承候官尹澤榮、同尹德榮、山林局長崔相敦、林業技師林五八、典膳司長金珏鉉、禮式官高義誠、宮内秘書官尹世鏞、小宮次官夫人、趙法相夫人、義親王殿下、大韓醫院長佐藤進、奏官佐々木四方志、醫官鈴木謙之助、承寧府總管[illegible]、副總管朴齊斌、同侍從長金春熙、侍從嚴植東、同洪奎植、掌膳金相昱、典醫洪哲普

●總豫算追加　韓國本年度歳入出總豫算追加の件上奏裁可を得たるが歳入追加額は六十一萬二千三百十四圓歳出追加額は四十八萬九千六百七十二圓なり尚は特別會計追加は金融資金の收入繰入にて十四萬千二百七十四圓なりし

●觀測所測候所の位置　農商工部所管觀測所及び測候所の位置を左の如く定められたり

位置	名稱
京畿仁川府仁川	觀測所
漢城府東部	京畿測候所
平安南道平壤郡平壤	平壤測候所
平安北道龍川郡龍岩浦	龍岩浦測候所
慶尙北道大邱郡大邱	大邱測候所
慶尙南道東萊郡釜山	釜山測候所
全羅南道務安府木浦	木浦測候所
咸鏡南道德源府元山	元山測候所
咸鏡北道城津府城津	城津測候所

●森林法施行細則の内容　近々農商工部令を以て發布せらるべき森林法施行細則の内容を聞くに本則は九章七十五條を以て成り第一章通則に於ては森林法及び其の附屬法令に依る出願人又は契約當事者の代理人及び總代並に其の住所に關する事項、國有林野調査測量に關する事項及び坪、町步、尺締、棚の單位等を規定し第二章は森林山野及び產物の特賣と題し特賣願書契約書に關する事項、特賣許可取消及び違約金に關する事項、契約保證金の納付、買受物件の引渡し、契約の異議解除に關する事項、並に產物搬出期限及び期限經過の場合に於ける違約金買受品拋棄に關する事項等を規定し第三章は產物の年期賣却に關しては年期賣却をなす場合、年期、出願方法、契約、代金納付、搬出期間、搬出未濟物件の拋棄、契約の變更解除、權利の讓渡、擔保、違約金等に關する事項を規定し第四章は讓與に關する規定にして國有森林山野の讓與を受けんとする場合の出願方法及び返還に就ての事項を定め第五章は交換と題し交換地の調査及び交換契約に關する事を規定し第六章は貸付に關する規定にして貸付料、貸付期間、貸付出願方法、契約、轉貸、境界標、貸付期間の猶豫及び借受人が規則又は契約に違反したる場合の裁判、權利相續、貸付の目的たる森林山野を公用又は公益事業に供するの必要を生じたる時の全部又は一部の返還に關する事項を定め第七章保安林には保安林編入又は解除の手續、補償の請求、造林及び保護の命令及び命令に違反したる場合の下繕等を規定し第八章森林警察には森林山野に入火をなす場合の手續、入火の禁止、期日の變更、森林山野害蟲驅除豫防に關する事等を規定し第九章は附則として届出願書等の樣式に關する事を定め別に第一號より第十四號に至る諸願書、請書、届書、契約書、見取圖等の樣式を制定せしと云ふ

●普通學校新設地內定　本年新設せらるべき韓國普通學校の位置に關しては學部より各地に人を派して調査中なりしが

●平壤の學校落成式　平壤普通學校は昨年校舍を新築せしが爾來就學者非常に增加し此の校舍にては規模狹少にして入學の希望者を盡く收容するを得ず更に一校舍の新設を要する場合恰も從來使用を許されざりし客舍を學校に使用して差支なき旨詔勅を發せられたるを以て右の建物に大修理を加へ今回愈々落成して優に八學級の生徒を容れ得るに至りたるを以て本月十三日其の落成式を擧行すと云ふ又同地日語學校は從來の校舍狹隘を感せし折柄右の昨年新築したる普通學校々舍不用に歸したるを以て之に移轉する事とし是亦本月十四日移轉式を擧行すと云ふ

●稅務講習所修業式　全州臨時稅務講習所は客年十月二十日を以て開所し爾來所定の學科を全部講習を了し去る二十一日其の卒業式を擧行せり式場は全州普通學校を借受けたるものにして定刻に至るや各講師及び修業生一同は來賓と共に着席し幹事は簡單に擧式の辭を述べ次で佐々木講習所長は修業生二十七名に修業證書を授與し尚其中に就き優等生三名に賞品を授け一場の訓示をなせり次ぎに堀事務官は講師を代表し先づ講習の修了を祝し進んで修業生の後來心得べき事項を訓諭し來賓青木法務補佐官崔財務官の祝辭演說あり終りに修業生總代答辭を述べ全く式を了して直ちに立食の宴に移れり此の日や恰も春季皇靈祭の當日にして席上の和氣自ら一層の光彩を放ち主客歡を盡して日暮散會したりと云ふ又大邱臨時稅務講習所は三月卅一日修業生二十九名に對する修業證書授與式を擧行せしが川上所長證書を授與したる上一場の訓諭をなし來賓の演說生徒總代の答辭あり修業生一同の愛國歌を以て式を閉ぢ紀念の撮影をなしたる後茶菓の饗應ありたりと

●暴徒討伐情報(軍司令部着)

△四月二日後洞の戰鬪に於て賊に與へし損害は死六十鹵獲品は小銃三十火藥雜品若干尚同討伐隊は續て賊を追擊し翌三日三洞に於て宿營中の賊を夜襲し之を潰亂せしめ稍附近に追擊せり以上の戰鬪に於て賊の死十六鹵獲品小銃六雜品若干我に損害なし

△原州守備隊の討伐隊は四日三日文幕東南宮村を包圍し土民の隱匿せんとする暴徒の募將以下四名を捕ふ

△江原道淮陽守備隊長以下步兵一分隊は四月五日灰峴西北方六吉羅米なる九才洞に於て五十余の賊を夜襲し其十二を殪し小銃八を鹵獲す

△平安南道孟山守備隊堤少尉の率ゆる討伐隊は四月六日陽德郡竜淵洞附近にて暴徒約四十と交戰し之を潰亂せしむ賊の死四負傷十小銃四驢二雜品若干鹵獲す

△京畿道長湖院守備隊の一部及憲兵若干は四月九日午後二時大德里に於て暴徒十六名と交戰し其三を殪し銃一彈藥若干を鹵獲す

●砂利院地方の討伐　吉本憲兵特務曹長の一隊は本日砂利院に着し三月四日は二隊に別れ四日同特務曹長の率ゆる下士以下三十二名は海州郡校丹面にて二十の賊に出會し其十を死傷せしめ銃六を鹵獲す中山曹長の率ゆる一隊は同日『イシサソムラ』にて三十の賊を四散せしめ同日更に三谷面にて二十の賊に遭遇し之を潰亂せしめ銃一を獲尚五日は一隊となり晋山面にて二十餘の賊に會し其四を殪し銃六刀一を鹵獲す我に損害なし

●連山の襲擊　去十日午前五時連山邑を距る南東約三里『カミパンポク』にて賊を襲擊し賊死五負傷八捕虜五鹵獲品銃四刀三金三十七圓七十五錢彈藥若干雜品三十五點我に損害なし

●賊郡衛備人を殺害す　四月八日坡州郡衛備人崔明光(七十)孫純宅(二十)の兩人は公用を帶び坡州郡泉峴面三峴里へ出張を命せられ出張中の處午後四時頃突然三峴里南端の山中より約四十名の賊徒現はれ兩人を押へ汝等は日軍の探偵なりとて拷問の上揚州郡牛骨里方面に拉去せるの急報に依り坡州憲兵分派所長は外二兵を引率し三峴里方面に偵察に向はんとするに際し尚同地巡査駐在所より巡査三名協同し共に偵察せしも得る處なかりしが翌九日楊州郡牛骨里の山中に日探の嫌疑に依り銃殺せられたるを確知せり附近韓人の言に依れば賊の首魁は許爲にして部下五十名位にして常に揚州坡州積城の三郡に跨り徘徊しつゝありと云ふ而して高陽の四郡に亘り一體に不穩の兆あり約三百名位賊團集合の疑ありと聞く

●獎忠壇招魂祭　韓國軍部に於ては本日午前十一時より獎忠壇に於て春季招魂祭を執行する由當日は軍部大臣を始め部員及び韓國軍隊一同參列すると云ふ

●青年會演說　九日午後八時水典洞青年會場にて開會九時閉會辯士玄楯は『公共心』を演說して曰く公共心とは愛國主義なり國家及び社會上の機關に公共心なければ何事も完成せず而して愛國心を培養するの根本は卽ち宗教なり海外歷史を觀るに有名なる政治家は愛國心を堅守して公共の心に充滿し居るを以て大小の事總て難事なきなり故に我青年諸君は益々宗教を遵守し公共心を進のられんことを云々

●侍天教の崔時亭祭　一昨十日は東學の首領故崔時亨が時の政府に迫害せられ遂に處刑に遇ひたる當日に付侍天教員一進會は同日午後三時より八百餘名侍天教本部に參集し祭典を執行せり

●鷺梁津模範場設置　農商工部にては今回鷺梁津に勸業模範場を設立することゝし既に數日前より其工事に着手したりと云ふ

●本邦文武官の敍勳　四月九日附を以て左の通り敍勳せられたり

特敍勳一等　日本國陸軍少將　內藤新一郎
特敍勳二等　步兵大佐　飯田左門
同　步兵中佐　鹽田武夫
特敍勳三等　騎兵少佐　喜多信太郎
同　三等主計正　最上喜太郎
同　同　河內驍
同　三等軍醫正　村上源
同　同　高井貞治
同　步兵大尉　武藤一策
特敍勳四等　統監府鐵道管理局技師　谷口小次郎
同　騎兵大尉　梅崎延太郎
同　憲兵大尉　市□登之助
同　同　渡原次郎
同　一等軍醫　甲斐四郎
同　同　宮崎泰治
特敍勳五等　統監府鐵道管理局技師　安田恕三郎
同　憲兵少尉　辻本良太郎
同　同　伊吉田勝藏
同　同　山田寬作
同　陸軍理事　福岡德次郎
同　同　春川泰助
特敍勳六等　統監府鐵道管理局技手　市川辰五郎
同　理事廳警部　橫尾萬太郎
同　同　梅崎辰太郎
同　同　田中信敏
同　同　齋藤彥次郎
同　同　高島五八
同　同　德尾剛三
同　同　鳥田英吉
同　同　池田英三
同　陸軍通譯生　西村伊三郎
同　同特務曹長　山下萬次郎
同　一等看護長　萩原義雄
同　同　本田彌作
特敍勳七等　看病人　藤川武一
同　同　西本與作
各賜八卦章
特敍勳三等　陸軍三等軍醫正　中川十全
同　四等　步兵大尉　中島鐵之助
同　同　中尉　飯島慶三
同　五等　憲兵中尉　高山喜孝
同　三等軍醫　氏家三顯
同　同　牟田熊彥
同　六等　統監府屬　市岡萬之助
同　七等　陸軍二等看護長　杉本保太郎
各賜太極章　憲兵伍長　塞河江孝之助

●三月中の京城金融(日本人商業會議所調)　本月に於て各部行は概して預金減少の傾きあり一般金融機關は何れも貸出澁り勝にして殊に春陽來暖に向ひ土木建築工事及び夏物仕入期に至りたれば資金需用の繁忙を來たし加ふるに一般市況の不振は一層取引の澁滯を告げ金融は前月に引續き逼迫を持續しつゝ越月せり內地に於ける財界救濟の聲又は東洋拓殖會社設立等、多少の光明と氣勢を副へたるが如きも未だ以て景氣恢復の緖と謂ふべからず

●高女學校落成期　南大門內の民團立高等女學校々舍は來る十六日迄には全部落成するにより是迄民團役所樓上に設けたる事務所は同日より移轉し二十日頃生徒を召集する見込みなりと云ふ

●高等女學校入學申込數　民團立高等女學校入學申込生徒學級は一年生十九人、二年生十六人、三年生十八人、四年生十二人合計六十五人にして目下入學手續中のもの二十名あるを以て開校迄には百名以上に達すべしと

●幼稚園入園兒童　昨日迄幼稚園入園を願出たる兒童は百十二名にして內五十名は高等女學校附屬幼稚園に收容し他は庚子紀念幼稚園に收容することゝなれり

●明石少將の視察　先般來黃海道地方暴徒狀況視察中なりし明石憲兵隊長には右の目的を了へ目下江原道地方を視察中なりと云ふ

●俵次官の平壤行　學部次官俵孫一氏は別項平壤の學校落成式に臨席のため上村事務官を隨へ本日朝南大門發列車にて同地に向ひ滯在二日の后十五日歸京する由

●韓官任免

依願免本官　警視　文圭復
同　中樞院副議長　成岐運
同　贊議　尹吉炳
兼任建築所技師　學部技師　石原鉦太郎

●近事片々

▲韓內　閣崩壞の噂も久しい者だが今度は全く瓦解すると與面目に噂する樣も面黑や
▲跡釜　顏觸は大東學會の申箕善を首相とし張博趙義淵成岐運等閣僚たらんと傳說す
▲現閣　の破壞は統監の胸算既に決す一進會內閣の夢想は迚も現實とならずと亦傳ふ
▲傳說　の眞僞素より判す可らずと雖も韓民の輿論は慥に傳說の如し現閣打破不得止
▲現閣　員は先例に依り中樞院顧問たるべしと亦噂せり併し此噂は總て韓民希望の聲
▲現閣　大臣打揃副統監を訪ひ暴徒鎭定の急務を訴ふ副統監却て反問是何人の責乎と
▲閣臣　グーの音も出す副統監重て淳々施政の改善を促す善政の下叛民無と極付らる
▲人氣　取に折角意氣込で副統監を訪ひ反て油を絞られ冷汗滴々引下りし閣抜さ可笑
▲氣が　利き過て間が拔ける傀儡の通り偶々出過ぎて味噌を付る噴飯以上の價値あり
▲申箕　善內閣の噂播布せるや一進會連急に騷ぎ立ち藏に火の付きたる如く狼狽する
▲要之　一進會と大東會との喧嘩也一進會民心離れ維持し難き餘り死物狂ひの餘波か
▲慶尙　道陜川郵便所長長泉豐氏暴徒に襲はれ重傷を受く乍每度困つた事だ物騷千萬
▲樺太　民政廳大分亂脈醜評紛々熊谷長官の辣腕は陸軍側も手古摺るとの風說あり
▲楠瀨　將軍熊谷の橫暴を憎み反抗するも熊谷某元老の後援を賴み却て楠瀨を排斥す
▲殖民　地政廳何れも亂脈同僚陷擠暗鬪の絕へざる若々しき事南山邊自今の雲行如何
▲英國　首相はアスキス氏に極る氏の政見はバ氏と異る者ありア氏は保守党に近き人
▲ア氏　は帝國主義を唱へバ氏は純然たる自由主義新首相前途の活動刮目する値あり
▲鐵嶺　淸人の孫娘情夫を拵へ祖父大に怒り地を堀て生埋めにす隨分殘酷極る仕打也
▲臺灣　蕃人霧社蕃と萬大社蕃と首狩の競爭をなす霧蕃三個の首を取らる全く蠻的也
▲近來　新聞三面記事無錢遊興多しドウして橫着者が殖るのか何とか制裁したい者だ
▲京城　日報の京城百面相は中々面白い昨日の文士問題抔振て居る矢張り文豪の一人

●輕騎兵中尉　陸軍騎兵中尉相賀寅雷氏は一昨日入京南尾旅館へ投宿せり

●巡査の賞與　大邱警察署巡査南水園三、本上豊、渡邊鑑次郎、稻田光穗の四氏は本年二月三日强盜犯人朴大成外五名を協力逮捕したる功により各金二圓宛を又本浦警察署巡査松永安太郎氏は一月十五日韓國通貨僞造行使犯人金田外を逮捕したる功により金五圓を何れも此の程賞與せられたり

●京城憲兵分隊の清潔　京城駐剳憲兵分隊にては昨日午前中室内外の大掃除を爲し一般の清潔を勵行したり

●十日參内者　昌德宮參謁者五十八人（内婦人七人）重なるは宮内大臣李允用、宮内次官小宮三保松、侍從院卿閔丙奭、同副卿李會九、主殿院卿李議濟、同理事尚鎭國、承候官尹澤榮、同尹德榮、山林局長徐相勳、綜業技師林五八、典膳司長金珏鉉、禮式官高義誠、宮内秘書官尹世鏞、小宮次官夫人、趙法相夫人、義親王殿下、大韓醫院長佐藤進、參與官佐々木四方志、醫官鈴木謙之助、承寧府總管趙民熙、副總管朴齊斌、同侍從長金春熙、侍從嚴柱東、同洪奎植、掌膳金相昱、典醫洪哲普

●鐵道員の犯罪（後報）

鐵道管理局員が仁川建設部に屬する材木を他に密賣し又は月尾島橋下を通行する船舶に對し一種の通行税の如きものを徴收して私服しつゝありしを其筋の知るところとなり縛に就きたることは前紙に記せしが其醜類の姓名を擧ぐれば左の通りなり

滋賀縣蒲生郡相原村字古川　當時京義線物開驛　保線助手　駒井馬之助（三十八）
廣島縣豐田郡鷲浦村大字日田　月尾島橋梁番人屋　池本輕太郎（四十）
山口縣熊毛郡室積村大字室積　仁川花町雜貨商　阪田龜太郎（五十）
大分縣北海部郡佐賀市村　京城西大門外大工　岡本市太郎（四十）

の四名にして駒井は仁川驛在勤中昨年十一月及び十二月中仁川港の船乘宮常太郎と大瀬戸品太郎が暴風の爲め月尾橋脚と衝突して橋脚に破損を生ぜしめたるを以て池本と共謀して損害賠償金として常太郎より五十圓品太郎より四十圓を騙取し本年三月初め頃自分の監視せる月尾島の材木杉丸太八十本材用五十四本（價格四十圓）を岡本と共に盜取せり三月中旬駒井、池本、阪田の三名共謀して角材五十本を永登浦の和田惣吉に九十圓にて賣却したるものにて仁川刑事の手に逮捕せられ目下取調中なり

●亭主の妾狂ひ

本町三丁目か四丁目か確かとは聞かねども西洋雜貨を賣捌き今では京仁間にも其名を知られたる店あり此店の主人といふは熊手鷹平といつて妻のお何と娘のお何と三人數年前裸一貫にて當地に來り夫婦共稼の末今日の身代を作り上げ今は夫婦の中に娘（十二）と何不自由なく暮らす身なるが拵へたる身代が不自由となりて温き衣服も着飽き美酒佳肴も今は口に甘味を覺へずなり偕老同穴とまで契りたるお何といふ娘の鑑があるにも拘らず兎角女房と疊は新らしきにとでも思ひしか或は又同じ商人の妾を圍ひ居るを見聞きして羨ましくなりてか近頃は店に買物に來る婦人にさへ妙な目付きをなして心の中にアーア女は溜息吐くこともありしが此頃内地より來れるお何（二十三）が玉子の剝身程に色白く姿は柳の風に靡くが如き風情あるに思ひを寄せアー好いたらしい内の嬶に比ぶれば雛とお月樣だ男と生れた甲斐には彼を手折りて床に据ゑて眺めたいと一生懸命になりて運動した結果は首尾能くも明治町一丁目の湯屋の二階の床に据ふること〻なり此花何時までも散らずに居れと店は番頭任せに明けても暮れても湯屋浸りに妻のお何も此始末を見て非常に心を痛めソレとなく意見せしに鷹平は左あらぬ体にてお前がヤキ〱言つたとて商賣人と云ふものは掛引や何かに付けて頭を痛むるものゆへチットは妾も置いて腦を冷やさんければツ〱は壽命が續かぬものではなし又た此年だから前が言ふやうに身代を潰すやうな馬鹿でもないから俺が一度妾の家に往く時はお前は衣裳一枚も買つて不作し遣れと云ひしかば妻のお何もお前さんがそんな了見ならと其后は亭主が妾宅に泊る時娘の手を取りて三越呉服店にてソレお召ソレ何と高價の品物のみを買取るにぞ先月の如き三越よりの書出しを見れば此代價は積りて三百餘圓の多額に上りしかば之を見たる亭主は高が衿か前掛位のものを買ふ位だろうと思つたら案外多額の金高に一時はギヨツとせしも妾のお何に現を拔せし亭主は之れにも辟易せず今に心を改めねば妻も愛想をつかし斯る亭主と何日までも連れ添ふては末の見込みがないと郷里に歸して呉れと云ひ出し昨今スッタモンダの大紛紜にて鷹平の此處頭痛鉢卷の体なりと

●南大門通りの陷穽

これが邊鄙の韓人部落ならば又しも南大門通りの眞ん中に斯の如き陷穽ありとは殆んど呆れて物も言へざるなり場所は丁度日の丸旅館の眞ん前にて而も人道の中央に當り居れるが此の陷穽は疾うより存在しありて過つて之れに足を入れ其の結果往々怪我を爲せしもの少なからざるは事實なり殊に夜間は極めて危險なるを以て其の筋にては一日も早く之を埋むるかさもなくば蓋をするとか何んとか通行人に危險を與へざるやう處置せられたきものなり

●口入屋酌婦の肩を切る

口入屋といへば田舍出の小娘が下女奉公の希望を依賴すると數日間留め置き借金を作らしめて淫賣婦に賣り込むなど宜からぬことを爲すものとは大抵相場の極まつたものなるが是れも其の一人にあるべし旭町一丁目の口入業小林榮藏は去る一月二十四日龍山梅町の茨木愛之助が雇ひ居りし酌婦三谷クマを太平町の料理屋八重垣方へ奉公替の周旋をなしけるが茨木方にてはクマに五十圓の前貸金あるを以て八重垣方より此の金を受取つて渡す約定にてクマを連れ出し八重垣方に連れ行き五十圓を受取りたれども茨木方に對しては三十圓を受け取り殘り二十圓は近日支拂ふべしとのことにつき此の金を受取りなば内五圓は手數料として引き去り殘り十五圓は直ちに渡すべしといひしかども何時まで經ても其の十五圓も支拂はざるのみならず果ては强情にも先方より未だ支拂を受けざれば如何ともすること能はざるより猶豫し呉れよといひ茨木が實地に就て取調べし所クマと引替にて五十圓は耳を揃へて渡せしといふより此の程委托金費消として茨木より告許に及びしが如何に始末せらる〻ものにや

●乳兒の脚を折る

南洞の李正老の家には客食の五六人も留きて亡國的遊惰の民を養成しつゝあることとなるが去る十日夜居候の李〓化（二十）と金昌龍（二十）とが戯れ遊び果ては喧嘩となりて組打を始めたる所へ安昌龍といふ二歳の乳兒が這ひ出でたるに李金の兩名は組合ひしまゝ此の乳兒の上に轉げ懸り夫れが爲めに安は左便脚を踏み折られければ兩名は種々佗るといへども安の母は仲々に承知せず警察署へ告訴に及びしより兩人は目下取調を受けつゝあり

●天魔が魅入つたか

相當に地位あり資産ある大旦那の体面上姓名丈は暫く三面記者の胸に疊み置く事とせんが所はたしか本町三丁目の角より五六軒手前のさる雜貨屋と知られたり扨此の雜貨屋に當年取つて二十五六歳の見るからに丹次郎的の若旦那ありけり此の若旦那見掛けに似合はず眞面目にて惡き道樂とて何一つなく此の頃も芝居見物や見物遊山の歸るさに連れの友達より料理屋又は遊廓へと無理に勸められし事もありしが毎時もキッパリと刎ね付けし程に仲間のものよりは野暮な人間時代後れの人物抔と冷嘲られ居りしも御本人はそんな事には一向頓着なく朝から晩迄帳場格子の前に坐はりては乾々と商賣大事に勉強し居る有樣の如何にも殊勝なるより兩親も我子ながら感心し俺が死んでの後も此悴ならば大丈夫だ一日も早く横道に入らぬ内に相應はしき嫁御を娶り俺は樂隱居をして孫の守りでも仕たきものよと老夫婦の寢物語りはいづも是れにて持ち切り又懇意のもの〻來る每に悴の自慢話は絶へざる程なりしが善より惡は移り易く染まり易きは初心の身の是非なき仕誼とはいふべけれど此の若旦那性來の堅氣なるに何んと心の駒の狂ひてか去る頃本町座にある演藝會の催しありしとき鬱さを晴らさんとて近所の友人二三人と共に見物に赴きしが其の歸るさ一人の友人の口より今日は久し振りでの會合なればソコ等の料理屋にて濁酒と一杯飲み交はしソレから解散しようではないかとの言葉勿論他の友達も賛成なれば若旦那獨り否といふ譯にも行かず不承々々に同意をしてある一寸とした小料理屋に押し上り二時間許り騷ぎイザ切り上げんとする際又々ある一人の友達より此の儘解散さは殘念だ一つ此れから新町へ繰り出さうではないかとの發議出より一同は酒のために氣も心も大きくなり居れば誰とて異議を唱ふるものもなく僕丈は先きへ歸るといふ臆かる若旦那を無理やりに引つ張り伸を連ねて花の廓へさしけ込みたり（つゞく）

●收賄人取押

西門外居李宋求は大邱觀察使李忠求の執事となり同居中觀察使の勢威を利用し收賄を敢行したる形跡あり取押方警視廳へ依賴し越したるを以て西部警察署に移牒し本人取押の上大邱警察署より出張の巡査に引渡せりと云ふ

●日曜說教　旭町二丁目名古屋城内の日本メソヂスト教會にては本日午後十時聖書研究日曜學校十一時よりストック氏の說教あり午後七時三十分よりは山口氏の傳道說教ありと云ふ

●日曜講壇　日の出町京城基督教會にては本日午前十時より禮拜說教夜八時より傳道說教あり參聽隨意にして演題左の如し
近世思想と新人觀（午前）　米澤牧師
精神教育に於ける宗教の位地（夜）　同

●寺洞の水族演藝　中署寺洞演藝所にては本晩より佛國人の水族演藝を開くべしと

●本町座の博多仁輪加　今晩より本町座に於て博多仁輪加を開催する由

廣告

제124호 1908. 4. 12.

夏物新着荷大賣出し

空氣呼鈴並に室內電話

嶄新流行の洋傘やねくたい其の他歐米雜貨各種荷着致し候間御觀覽旁々當店へ御來店有られん事偏に乞願奉り候敬具

韓國京城本町六丁目

歐米雜貨商 中塚支店

銀行一般の業務精々御便利に御取扱可申候

資本金三百万圓

本店 大阪市西區北堀江通五丁目

支店 釜山 仁川 平壤 鎭南浦 安東縣

株式會社 第五十八銀行京城支店 (電話五八番)

爲替取組先

畿內 二十七ヶ所　東山道 十三ヶ所　山陽道 七十五ヶ所　南海道 二十三ヶ所　北海道 五ヶ所　臺灣 二ヶ所

東海道 二十八ヶ所　北陸道 十ヶ所　山陰道 十三ヶ所　西海道 三十ヶ所　韓國 九ヶ所　清國 一ヶ所

廣告

一本會發行之綿絲景品券ハ三月一日以降總テ假券ヲ交付致居候處三月一日以降ノ輸入綿絲ニ對シ交付致候假券ハ四月十五日ヨリ當代理店ニ於テ本券ト引換御交付可申上候

此段廣告仕り候也

明治四十一年四月七日

大日本紡績聯合會仁川代理店

三井物產合名會社仁川出張所

追テ過日廣告ノ第六等景品壹本ニ付十六手綿絲四玉ト有之候ハ參玉ノ誤リニ付此段併セテ廣告仕候也

銀行一般業務精々御便利に取扱可申候

資本金 參百萬圓

積立及繰越金 八拾萬圓

京城南大門通(電話四二〇)

株式會社 十八銀行 京城支店

本店 長崎市築町

支店出張所 京城、龍山、仁川、木浦、釜山、元山、羅州、群山

韓國

日本 大阪、熊本、佐世保、嚴原、五島、壹岐

其他日本韓國樞要地及露領浦鹽に爲替取引先あり

貯蓄預金 一口壹錢以上何程にても御預り申候 (利息日歩壹錢四厘)

長崎貯蓄銀行代理店 (十八銀行京城支店)

謹告

エジプト莨及マニラ葉卷其他煙草類各種

西洋雜貨洋酒洋菓子並に支那糖菓及紅茶

謹告在韓淸國人

大連安徽 頭彩 金壹萬圓 第三十六次 (陰曆四月二十日 清曆三月二十日) 開彩

湖北 頭彩 金五萬圓 第七十五次 (陰曆四月廿七日 淸曆三月廿七日)

江南 頭彩 金壹萬圓 第十六次 (陰曆四月十六日 淸曆三月十六日) 開彩

▼定價

湖北彩票全紙金七圓五拾錢 小切八拾錢

江南彩票全紙金七圓 小切七拾五錢

大連彩票全紙金壹圓參拾錢

安徽彩票全紙金壹圓參拾錢

西洋雜貨商 源源號

京城水標橋二宮街

▲電車割引券發賣

▲電車割引券

▲龍山線區域改正

▲電車發着時間改正

米

四日一日より鍾路本社及龍山電車停車場にて發賣す

六十枚綴一冊に付金二圓八十五錢何れの區域にも使用し得べし

四月一日以後は南大門驛前を境界點とし同點より鍾路及龍山迄を各一區域とす

四月一日以降は夏期時間表に依り電車を運轉す

韓美電氣會社

會席御料理

並に仕出し

京城三好町歌舞伎座前

筑紫亭

一各種石炭大販賣

大の浦塊炭

豆田塊炭

大辻塊炭

三池紛炭

ストーブ用として右三種取寄せ貯炭罷在り御希望に從ひ多少に拘はらず迅速御屆け可申上候

鍛冶用として貯炭罷在り多少に係はらず御用に應し可申候

當社一手販賣炭左之通り

三池、田川、伊田、山野、金田、豆田、津波黑、藤棚本洞、大の浦五尺、大の浦三尺、笹原、滿の浦芳雄、大辻、白岩、柚木原、岸嶽等

三井物產合名會社

京城出張所 (電話二十六番)

仁川出張所 (電話六十三番)

營業科目

活版活字鑄造　石版銅版　木版彫刻　コロタイプ版　寫眞版　諸帳簿　製本裝釘

今般日韓圖書印刷株式會社ヲ日韓印刷株式會社ト改稱致シ左記ノ處ニ新築落成仕從前ノ通營業致候間倍舊御愛顧之程奉願上候也

日韓印刷株式會社

本社 京城明治町三丁目 電話(三二三番)

東京出張所 東京京橋區南鍋町一ノ十 電話新橋(三九六二番)

開店御披露

御料理

並に壽き燒かしわ

新築落成仕候に付き客月二十九日より開業罷在候間續々御來車被下度奉願上候 敬具

京城南山町三丁目

〇勝

日本澤庵

味噌醬油製造

乾物荒物鑵詰

銘茶食料雜貨

京城本町五丁目

漬物問屋 大上商店 (電話二五一番)

本店 仁川理事廳通 (電話三二番)

支店 京城南山町 (電話一〇七番)

原金旅館

拾有八年の實驗

最新學術の應用

京城南山町三丁目

齒科醫 六等勳 檜崎東陽 (日本人倶樂部向)

易斷觀相鑑定及敎授

黃文閣

本町六丁目

和洋會席御料理

並に仕出し

京城本町二丁目

曙亭

●大阪豆腐●

大阪滋養大王豆ソップ

右は一合三錢にて朝夕配達仕候間御入用の御方ははがきにて御一報被下度候

豆腐木の芽でんがく

右は一人前十三錢にて仕出し可仕候

京城旭町壹丁目

中瀨商店

●木の芽田樂●

入院隨意

十全病院

京城旭町三丁目

電話七三七番

轉居廣告

產婆 堀越直

今般南山町三丁目百二十番戶(掬翠樓の隣)に移轉仕候

支店開業廣告

弊店ハ韓國ニ於ケル唯一ノ電氣機器專門ノ販賣店也

營業科目

電氣諸機械製造販賣並ニ修繕

電燈裝飾品、並ニ教育用器具各種

電燈、電信、電話、呼鈴、避雷針等 布設工事 設計受負

電氣扇風器、醫療電機、表示器、盜難用報知器、電池電線、電球、電傘等各種

右ニ關スル外苟モ電氣ニ關スル萬般ノ事業ハ勿論室內外ノ架線取付工事ヨリ電話用、電池ノ掃除ニ至ル迄悉皆特ニ弊店獨特ノ長技ヲ以テ該ル所普ク湖江ノ需ニ應ズ可ク候條御一報次第直ニ拜趨設計ノ上約束可仕候

弊舖ハ數十年來、日本、東京ニ於テ該營業罷在リ候處今般左記ノ所へ支店設置開業仕候依之各種機械類ハ歐米各國嶄新ノ品ハ無論東京工塲自製堅牢ノ品ヲ以テ調達大々的廉價良品撰擇誠實迅速叮嚀ヲ旨トシ御好ニ應ズ可ク候條多少ニ拘ラズ御一覽ノ上格段ノ御用命伏テ奉希上候敬白

韓國京城長谷川町壹丁目四拾貳番戶

光電社支店 電話架設中

東京市芝區新堀町拾七番地

光電社本店 電話新橋三三二七番

一層業務を擴張し敏腕の事務員數名を增聘し迅速且つ懇切に左の事務を取扱ふ

一民刑訴訟の鑑定及諸般代書事務

一貸金賣掛金等に關する債權取立事務

一鑛山及土地の測量製圖並に出願手續

一會社組合銀行等の顧問

京城本町一丁目

明治法律學校出身

增本好三郞事務所 (電話取次六二四番)

韓國京城

株式會社 第一銀行

本店 東京市日本橋區兜町

內地支店、出張所 大阪、京都、橫濱、神戶、名古屋、四日市、下關、兵庫、伏見、大阪西區、東京新大阪町

韓國支店、出張所 仁川、釜山、元山、鎭南浦、群山、平壤、木浦、大邱、開城、咸興、城津、馬山、鏡城

淸國安東縣

右爲替取引先あり

は外內外各地重要なる場所に

營業事務に關する御用向は當店營業課長に御相談被下度候

電話番號 (營業用) 一一番 (當直用) 國庫 用度 生 分析所用 六二番 (營業用)三三番 (六二二番)

京城電話讓物あり

御望の方は旭町二丁目三河屋(電話一一八番)迄御來談ありたし

日本郵船株式會社

瀛船仁川出帆廣告

貨物及船客取扱店

仁川海岸通

郡回漕會 電話三九番

京城南大門通

巴商店 電話三〇六番

(電話十番)

●釜山長崎門司神戶行 山東丸 四月十二日 後三時出

●群山、木浦、釜山、門司、神戶、大阪行 第一オハヨ號 四月十二日 後四時出

●大連、大沽、牛莊行 釧路丸 月 日 後三時出

●大連、大沽、牛莊行 高砂丸 四月十日 前五時出 山東丸 四月廿八日 前五時出

●鎭南浦行 酒田丸 四月廿三日 後一時出 第一オハヨー號 四月十日 後三時出

●釜山出帆、元山浦鹽行 弘前丸 四月廿二日

御注意 御乘船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ稅關棧橋ノ事

襖新調

並ニ張替

京城旭町三丁目三ケ月旅館前

表具師 高瀨光榮堂